

初めての国際会議で得たこと

工学府機械知能工学専攻M2 高田 知佳



学会発表

平成24年10月24日～26日に韓国の濟州島で開催された国際会議 (ISFMEE 2012) に参加しました。

本会議では、コンプレッサー、ポンプ、風車など、様々な流体機械や流体工学に関する発表分野があり、11か国から約270人参加しました。私の研究室からは私を含め5名が、ポンプ、波浪、水力、風力などの流体移送やクリーンエネルギー開発に関する研究発表を行いました。

私はその中の風力分野において、「実風況化におけるインテリジェント風力発電ユニットの運転」という

テーマを発表しました。従来型風車とは異なる前後2段の風車ロータと特殊な発電機を採用することで、従来型風車と比べて幅広い運転領域で高出力を実現できる次世代型の風力発電を目的とした内容です。

経験したこと

私にとって今回の国際学会が初めての学会デビューでした。今まで学会の経験が無いことに加え、英語に苦手意識が強い私は準備段階から非常に不安でしたが、事前に教授から十分なご指導をいただいたおかげで、無事に研究の発表を終えることができました。しかし、質疑応答では質問の内容が理解できないところもあり、的確な回答ができないものもありました。これまで明専会報や先輩方の話等で、英語がどれだけ大切か十分に理解していたはずですが、英語に抵抗があり、勉強を避けてきた結果今回の状況に陥ってしまったの

だと思えます。理解していただけない非常に悔しく、大きな課題が残ることとなりました。

今回の学会を通じて気づいたことは、基礎の大切さです。英語と聞くとは分らない単語や文法に目を向けるがちになってしまい、学習を始める際にどこから手をつけていいかわからず、先延ばしにしがちです。しかし実際に必要だったのは、自分が理解している範囲の基礎部分を固めることでした。

研究発表ではもちろん専門的な単語知識は必要となりますが、バンケット等のコミュニケーションをとる場において最低限度の会話をする



天帝淵瀑布にて

上では、中学文法や単語で十分だったということですが、それにより、今まで難しいと避けてきた英語が身近なものに感じ、英語に対する苦手意識が和らいだと同時に、英語においても、基礎の大切さを学びました。これを機に残り少ない学生時間を見直し、英語の勉強にも積極的に努めていきたいと思えます。

ホテル周辺

学会中はロッセホテルに滞在しました。ホテル近くには濟州島で最大の滝「天帝淵瀑布」があり、その滝に行く途中の天女をモチーフにした橋から見る景色は、濟州島の綺麗な海も見渡せ、絶景でした。また射撃場もあり、本物はやはり想像を絶する迫力がありました。学会に併せ日本では絶対に経験することができない体験もさせていただきました。

おわりに

最後に、奨学金を援助していただきました明専会及び、研究や論文執筆、発表に対して指導及び助言を示していただいた金元敏明教授に謝意を示します。